

令和7年度 第1回麒麟のまち創生戦略会議 議事概要

日時：令和7年5月2日（金）午前11時00分～12時00分

場所：新温泉町民センター 2階 集会室 （新温泉町）

出席者：鳥取市長、鳥取市副市長、岩美町長、若桜町長、智頭町副町長、八頭町長、香美町副町長、新温泉町長

1 開 会 新温泉町長あいさつ

2 議 題

（1）日本遺産「麒麟のまち推進協議会」の取組状況について・・・・・・ 資料1、1-1

＜八頭町長＞

令和6年度収支決算について、多言語翻訳サイトの準備が間に合わなかった理由は何か。今年度が日本遺産の認定更新審査の年であるので、本来であれば、令和6年度中に実施し、審査の中でも活用していくべきであったと思う。

＜事務局＞

令和6年度中の認定更新の準備等に係る業務が想定以上に増大したため、事業の執行が困難となったものです。

（2）（一社）麒麟のまち観光局の取組状況について・・・・・・ 資料2

＜岩美町長＞

アンケートの回答数は十分だったという分析をされているか。私の感覚で言うと、ちょっと少ないというのが率直な思いである。

例えば、アンケートを答えていただくことによって、何らかのプレゼント的なものも含めて企画はどうなっているかということをお伺いしたい。

＜事務局＞

ご指摘のとおり、2,763件というアンケート回答数は前年より減ってはいます。これには、明確な要因がわかっておりまして、観光事業が活発化していく中で、同じようなアンケートの取り組みが増えてきたことで、埋没感というところをDMOとして分析をされているところです。アンケート件数の底上げというのは、今年度の大きなテーマに掲げておられますので、アンケートをとっていく中で、商品などの見直しをしながら回収率を高める取り組みをしていこうと考えております。

少し関連しますが、DX事業の方でもアンケートではないですが、より多くの方に圏域を周遊していただくというような取り組みを実施しております。昨年実施したスタンプラリーを見ても、3エリアや5エリアを周遊していただいている方も結構おられますので、このDX事業とマーケティング事業を効果的に結びつけて、データ取得といったこともあわ

せて強化していきたいと考えているところです。

《岩美町長》

ぜひとも客体数を増やして分析する価値のあるデータ収集をお願いしたいと思う。

《若桜町長》

旅行者の動線が、どこに立ち寄って、次はどう行っているのかというようなことも非常に関心があることであると思うので、そのような分析が詳細にできるような形でいただけたらと思うし、年度ごとの推移などもわかるようにしていただけたらと思う。また、今年は、インバウンドを対象に加えられるとのことで、そのあたりも期待しているところであり、よろしくをお願いしたいと思う。

それともう一つ、ガイドの関係で、資料中にローカルガイドや英語ガイド育成研修があるが、特に英語のガイドなどを単町で確保することは非常に難しいという状況がある。

その中で、麒麟のまち圏域としてガイドの育成をしていただければありがたいなと思っている。麒麟のまちで育成していただいたガイドを、各町が必要な際をお願いをし、来ていただくといった流れになるのが一番いいかなと思うので、今後どのような形でガイドを活用されるのかをお伺いしたい。

《事務局》

年度ごとの推移は、見える化して、例えばお客様がどういう動線で回られたかというところをわかるようにしたいと思います。資料2の2ページ、マーケティング事業のところに記載があるように、実際に一番多いのが砂丘を訪問された後、圏域の中でも東西の動線が主流を占めているといった傾向が強いようです。ただ、南北も含めまして、年度ごとの推移としてどのような動線の傾向が見られるのか、コロナ後に観光が再開された令和5年度以降あたりから、分析をもう少し深めて、ご提示できるようにさせていただきたいと思っております。

また、ガイドについてですが、2種類のガイド養成のうち一つは、地元のガイド向けのいわゆるスキルアップのための研修、もう一つは、山陰インバウンド機構に登録をされている通訳案内士の資格を持ったインバウンドガイドの方を、若桜や八頭などの圏域にお招きをして、地元のガイドさんが説明しているようなことを通訳案内士のガイドさんに学んでもらい、知識を得てもらうというような研修であったと伺っております。

ですので、先ほどお話のありました各町からそのようなガイドの要請依頼があった場合の仕組みというのは、この通訳案内士さんを通してガイドを手配するといったようなことで可能だと思います。あとは、例えばDMOを通して手配するのかなど、その辺りの事務的な確認をしていく形でいいのではないかと考えております。

(3) 麒麟のまち官民連携プラットフォームの包括化について・・・資料3、資料3-1

《八頭町長》

3つのプラットフォームを1つにすることはよろしいかと思うが、組織の形態などは麒麟のまち1市6町としてどのように考えているか。

《事務局》

具体的な詳細については、検討準備会で各町の皆さんと具体的にしっかりと協議しながら進めたいと考えております。先ほど申し上げましたように、麒麟のまち地域食堂ネットワークを基盤とした運営体制を考えております。

現在、麒麟のまち地域食堂ネットワークでは、食堂を運営する団体と支援企業と行政の三者による共同代表制をとっており、それをもとに執行部にあたる運営委員会を置いて具体的な取り組みを進めていくという体制になっております。こちらの一つの参考にしながら、麒麟のまち全体で取り組んでいるということがしっかりと見えるような形の組織体制を作っていく必要があると考えているところです。繰り返しとなりますが、検討準備会でしっかりと丁寧に議論を重ねていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

《智頭町副町長》

包括したプラットフォームを作ることは良いことだと思うが、その中で、なぜ法人化が望ましいのか、法人化を進めていかなければならない何か理由があるのか疑問に思う。

《事務局》

資料3の2現状と課題の(3)で少し触れさせていただきましたが、休眠預金活用助成金を活用した際に、地域食堂ネットワークが任意団体であるということから、契約関係が共同代表個人との契約になってしまうということがあります。法人格であれば当然法人としての契約になりますが、現状では、共同代表個人と助成先との契約関係となり、個人の方のサインと印鑑で契約を結ぶというようなことで、相当なご苦勞をいただいたり、ご負担をおかけしたり、あるいは何かしらのことが起こったときには、その責めが個人に及ぶようなこともありますので、なかなか個人格では大きな助成金も活用しにくいという経験がございます。今後、さらに公費だけではなく、様々な助成金等の資源を活用していくためには、法人格を持つべきではないかと考えてきたところでございます。

《若桜町長》

地域食堂ネットワークについては、副市長をはじめ、地域食堂立ち上げに大変お力添えをいただいた。最後発ではあったが、昨年、地域食堂ネットワークに加入したことで構成町としては、食材を融通していただくなど大変ありがたい形で運用させていただいている。今後、孤独孤立プラットフォームやフードバンクなどを含めてということだが、孤立孤独の事業が入ることによって、構成町にどのようなつながりや効果があるのかということをお聞かせいただけたらと思う。

《事務局》

少し話が外れますが、一番組織として成り立っている地域食堂ネットワークを基盤にし
まして、会議体であります「孤独孤立のプラットフォーム」や「食支援のプラットフォーム」
の今やろうとしていることもそこにうまく組み込んでいこうというのが今日の説明の主軸
となります。

特に孤独孤立の取り組みにつきましては、地域の取り組みとして有効な一つの方法では
ありますが、急激な人口減少や単身世帯が4割に迫ろうという中で、居場所作りのようなこ
とが今後重要な取り組みになってくると思います。

そういった中では、地域食堂がそれを先行して進んでいる取り組みだと考えております
ので、この孤独孤立の取り組みと居場所作り、さらには各町でも展開していただいています
「つながりサポーター」の取り組み、このようなあたりがうまく連携しますと孤独孤立対策
をテーマにしながら、地域のいろいろ活動が推進していくのではないかと考えているとこ
ろです。

（４）令和７年度新しい地方経済・生活環境創生交付金事業（第２世代交付金）につい

て・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・資料４

（質疑・意見等なし）

（５）若者定住促進事業（麒麟のまち婚活サポートセンター運営事業）について資料５

《新温泉町長》

会員同士の成婚報告４組とあるが、構成市町の内訳はどのようなになっているか。

《事務局》

１組目は鳥取市の男性と鳥取市の女性、２組目は八頭町の男性と鳥取市の女性、３組目は
香美町の男性と鳥取市の女性、４組目は八頭町の男性と鳥取市の女性ということでござい
ました。

３ その他

《八頭町長》

資料２の３ページ下にインバウンドセミナー実施の記載があり、おそらく令和７年度の
人材育成関係のためにされているのではないかなと思うが、このような研修の開催場所はど
のように決めているのか。

《事務局》

こちらは、ジオパークエリアの市町を対象に行った事業になりますので、開催場所につい
ては、鳥取市をはじめとしたジオパークエリア地内で実施させていただいております。

令和７年度は、このジオパーク事業は補助事業が終了し、３年目のローカル鉄道事業とな
るわけですが。ガイドの研修内容をどのようにしていくかというのは、まだこれから話と

なっております。昨年度、ガイド付きのコンテンツなどを作ってきた背景もございますので、もしも、研修を実施するとすれば、今年度はローカル鉄道となるため、鳥取市を含めた３町のエリアでの研修という形にはなってこようかと思えます。そのような研修の計画があるのかないのかも含めてDMOに確認をしたいと思えます。

４ 閉 会 鳥取市長あいさつ